

全国障害者スポーツ 大会ボッチャ競技について

広島県障害者ボッチャ競技大会Ver.

ボッチャの用具について

★ 競技に使用するボール・ランプについては各自で用意する。その際は、既定の範囲内のものを用意すること。（主催者より貸出を行うことも可能）

■ボール

・赤6個, 青6個, 白1個

規定: 革製・重さ=275g±12g・周長=270mm±8mm

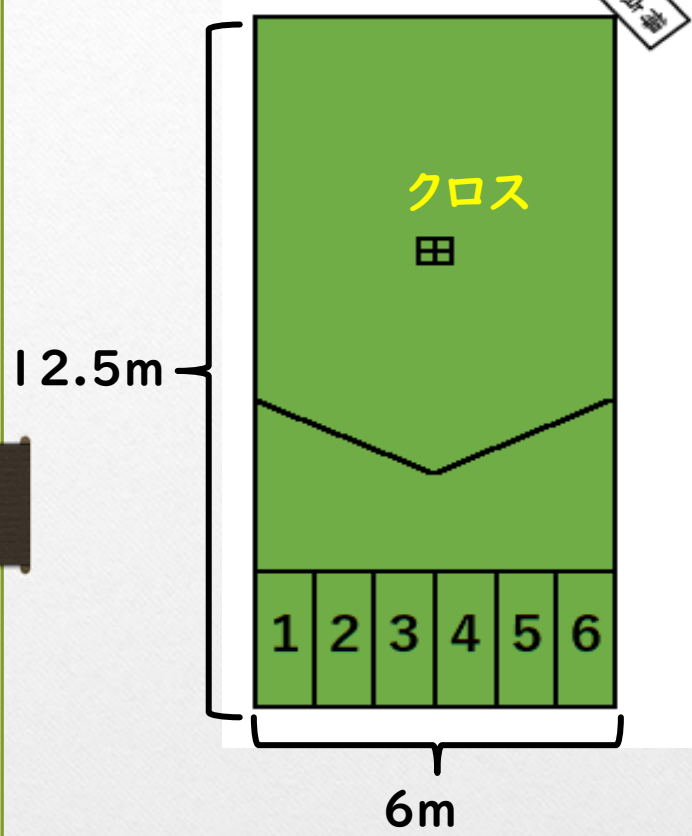
※多いと反則となり没収される。

■ランプ

・投球をすることが難しい選手が使用できる。

規定: 横に倒したとき, ボックス内に収まる大きさ

新設



パドル: 投球する色のパドルが審判から示される。



ボール: 赤・青各6個, ジャックボール(白)1個



ランプ: 投球が難しい選手が使用できる
(座位)

ボッチャの概要

- ★ コートの中央（3番4番ボックス）にボールを全てもって位置につく。
- ★ 先攻（赤）がジャックボールを投げ、続けてカラーボールを投げる。
- ★ 次に対戦相手が投球する。
- ★ 次の投球はジャックボールから遠い方が投球する。（以後、同じ）
- ★ すべてのボールを投げ終わって、ジャックボールに最も近いほうが勝ちとなる。最終的な点数を選手に示してエンドの終了となる。
- ★ 先攻、後攻を入れ替え第2エンドを行い、1エンドと2エンドの合計得点で勝敗を決める。

試合の流れ

- ★ 試合はタイムテーブルに基づき行われる。ただし、前の試合が早く終わった場合は次の試合に入る場合もある。(その場合は試合時間をコールする)
- ★ コール後、5分経ってもコートに入らない場合は棄権となるので注意する。
- ★ コートに入る際には背中または車いすの後ろにゼッケンをつけること。(各自で用意する。大きさは任意)

(例)

ふりがな
氏名

★ じゃんけんで勝ったほうが先攻・後攻を決める。

★ 先攻は3番ボックス, 後攻は4番ボックスに入る。



★ 審判の合図でウォームアップを開始する。
※ジャックボールと持ち球6球を2分以内で投球する。

★ ウォームアップ終了後, 試合に入る。

第1エンド開始

☆ 持ち時間は1人6分である。6分以内にすべてのボールを投球しなくてはいけない。

- ① 先攻は審判の「ジャックプリーズ」という言葉かけの後、パドルを示されたらジャックボールを投げる。
- ② 次に、先攻は審判よりパドルを示されたらカラーボールを投げる。
(指示される前に投げると違反となる)
- ③ 後攻は審判よりパドルを示されたらカラーボールを投げる。
- ④ 以降は、審判が投球する選手のパドルを示す。
- ⑤ すべてのボールを投げ終わり、審判が点数を発表し、第1エンド終了。

第2エンド開始

- ☆ 第2エンドは先攻, 後攻が入れ変わり, 第1エンド同様に行う。
その際, コートの入れ替わり, カラーボールの交換は行わず, 先攻が青, 後攻が赤となる。
- ★ 試合の流れは第1エンドと同様である。
- ★ 第1エンドと第2エンドの合計得点で同点の場合はファイナルショットを行う。
- ★ 試合終了後, 審判より試合の結果を伝えられるので, 確認しスコアシート of 承認欄にチェックを入れる。
- ★ 終了後, 解散となる。

ファイナルショット制度

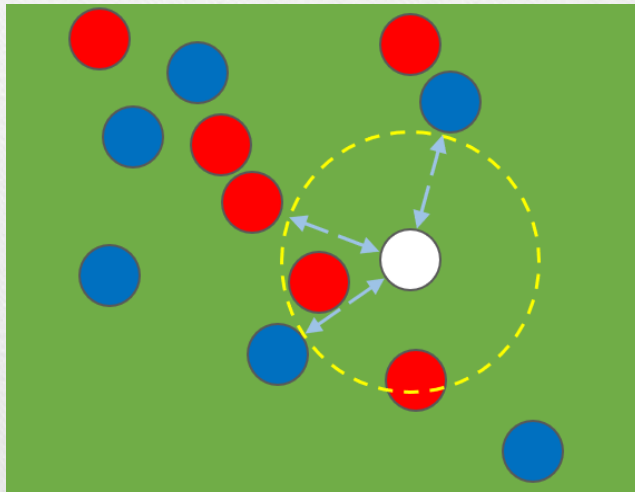
☆ 第2エンド終了後、合計得点と同点だった場合にファイナルショットを行う。

- ① じゃんけんを行い、先攻・後攻を決める。
- ② 先攻のジャックボールをクロスに置く。
- ③ パドルが示されたら先攻の選手は投球する。
- ④ その後、後攻にパドルが示されたら投球する。
- ⑤ ジャックボールにより近いほうが勝ちとなる。

※ファイナルショットの得点は合計得点には反映されない。

得点の判断

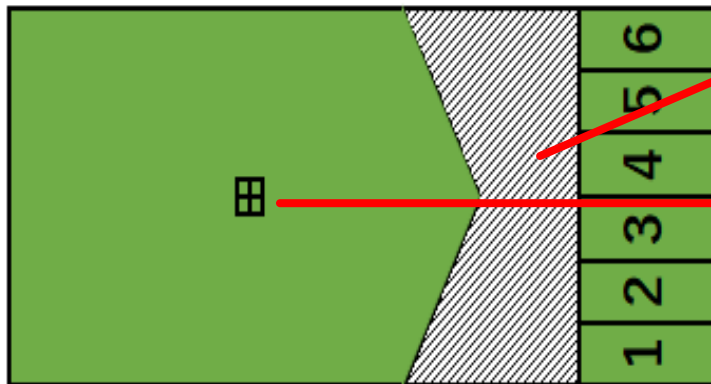
- ★ ジャックボールに最も近いボールを投げた選手が得点権を得る。
- ★ 負け選手のジャックボールに最も近いボールよりも勝ち選手のボールがいくつ入っているかを判断する。



(例) この場合は赤2点, 青0点となる。

ジャックアウトについて

- ★ ジャックボールがコートの外に出る, 無効エリアで停止すると対戦相手がジャックボールを投げなおす。(ジャックボールは投球する選手のものを使用する)
- ★ 試合中にジャックボールがコート外に出た時はクロスへ移動する。



ジャックボール無効エリア

クロス

違反行為について(選手)

☆ 以下の行為をした場合は違反となり, 投球したボールはリトラクション(取り上げ)となり, 点数には反映されない。

★ ラインクロス

投球ボックスの前の線, 横の線を踏んだまま投球する行為。

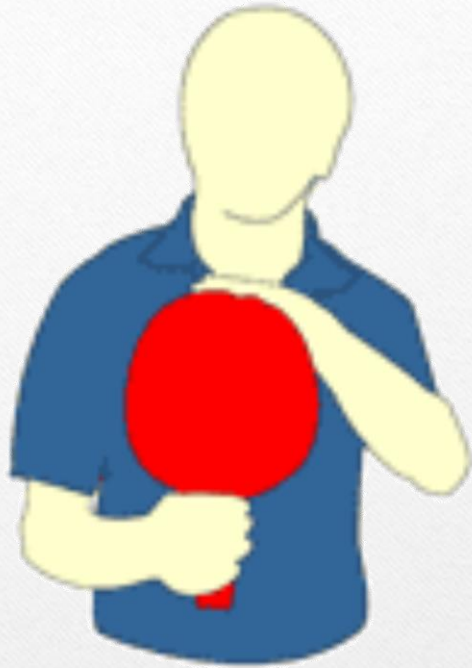
【例外】・ランプが横の線を超える。(踏む, 前の線を超えるは違反)

・車いすで手投げの選手はフットレストは前の線を越えてもよい。
(前輪が踏むのは違反)

★ 指示なし投球

審判が指示をしていないのに投球する行為。

投げなくても, ボールを丸めたり, 投球動作をすることも認められない。
(ボールを持つだけはよいが, 動かないまたは膝の上に置いておく)



左図のように、自分に向かってパドルを示されてから投球する。

⚠️アシスタントが選手の指示前にボールを渡したりすることも違反となるので注意する。

⚠️選手はパドルを示されたらアシスタントからボールを受け取るまたは、ランプにセットしてもらう。

違反行為について(アシスタント)

- ☆ アシスタントが以下の行為をした場合は違反となり、投球したボールはリトラクション(取り上げ)となり、点数には反映されない。
- ★ 競技アシスタントが試合に介入している(コーチングしている、選手の指示と違う動きをしている)と審判が判断した場合。
- ★ ランプ使用選手の競技アシスタントが試合中に振り返ってコートを見た場合。
- ★ アシスタントのラインクロスも違反となる。

その他

★ 試合中に、ボールを見に行く場合はパドルを示された後に見に行く。
(その際も投球時間に含まれる。)

★ ランプ使用選手の車いす移動をアシスタントがする場合であっても、コートの方角を見ることはできない。

★ 試合中に緊急事態が起こった場合、5分間のタイムアウトを取ることができる。また審判が認める場合は追加で5分間の延長ができる。しかし10分を超えてもコートに戻らない(戻れない)場合は棄権とする。

※このルールは全国障害者スポーツ大会の競技規則をもとに、広島県独自のルールを取り入れたものである。